

呑川レポート 2014-17

ボラの大量遡上-5(急流を乗り越えたボラたち)

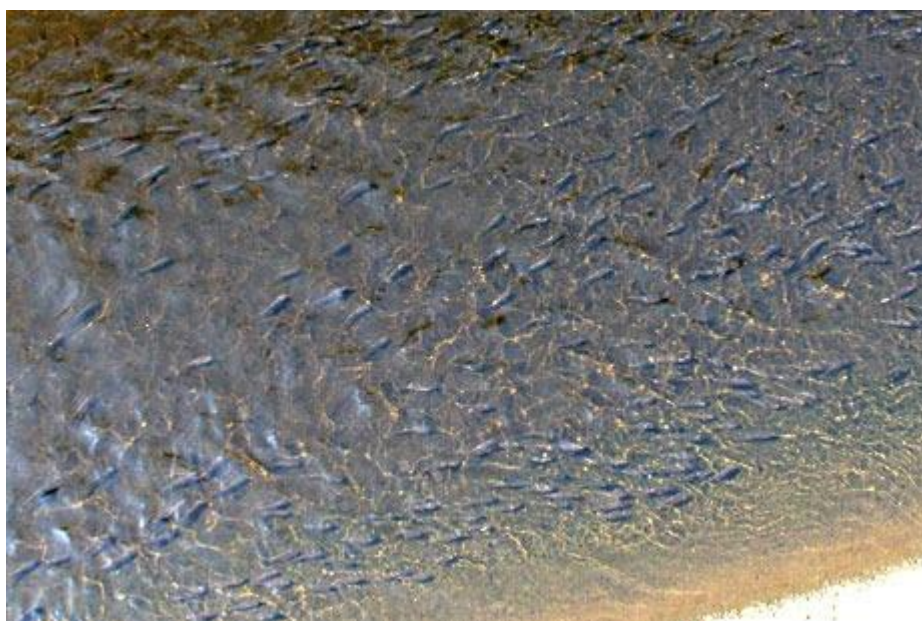
この夏はとりわけ忙しく、前回のレポートから1週間も経ってしまいました。

今回の「ボラの大量遡上」で、解明したいことの一つに、魚の遡上を阻害する要因が、「呑川」のどこにあるか?・・・という点でした。

いままで見てきたように、「仲之橋」付近の「段差」は、ボラにとって大変な障害だったようですし、コサギなどの「狩猟圧力」も小さくないものでした。

しかし、それらの障害を乗り越えて、上流に向かって遡上したボラたちは、多くは無いにせよ、それなりにいたのです。

(5-1) 思わぬ障害・・・長い急流域



「雪が谷」地域のさらに上流、中原街道の「石川橋」を越え、最上流の「石川町」にまで遡上したボラは、中流域ほどギッシリでは無いにせよ、川幅いっぱい広がって遡上して来ました。



ところが、ある場所でボラは遡上を止めてしまいました。この場所が、どんなところか見てみましょう・・・



ここは「島畑橋」から上流側を見たところです。上流から流れてくる水は、ゆるやかに、ゆったり流れて来ましたが、急にここに来て波立ち、流れが速くなる区間があります。



この「急流」の直下で、ボラたちは遡上を止め、留まっているのです。「仲之橋」の「段差」は、一瞬で乗り越えられても、この「急流」は10m以上もあり、かなり長くて、「一瞬」とはいかず、この長さが大きな困難をもたらしているのかもしれない。



川の中央より、兩岸は流れが遅いので、左岸にも右岸にもボラは留まっています。

右往左往しているようで、上流に向かうもの、下流に向かうもの、横を向くものなど、バラバラです。

この「急流」は、思わぬ障害として立ちはだかっているようです。



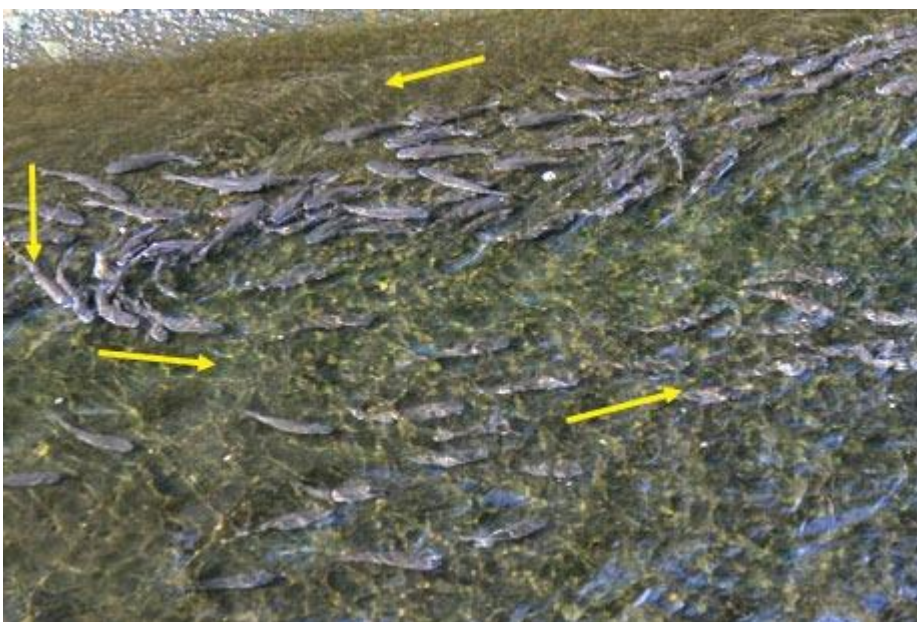
しばらく見ていると、ボラたちはこの「急流」に立ち向かおうとせず、あきらめて下ろうとする個体が増えてきました。

私がカメラを向けていると、「魚が居るんですね・・・」とビックリした様子で、多くの方はスマートフォンなどのカメラで、パチッと写していきます。「下流から遡上して来たのですが、ここで留まっているんです」と説明するのですが、興味なさそうに、写真さえ撮れば帰って行きます。ここで、少しの時間でも観察していけば面白いのに、いつも残念に感じます。

この日は、その後、ボラたちはほとんど下流側に戻り、この「急流」の障害の大きさを、まざまざと感じました。

(5-2) 「急流」を乗り越えたボラたち

この「急流」の厳しさを知った2日後・・・



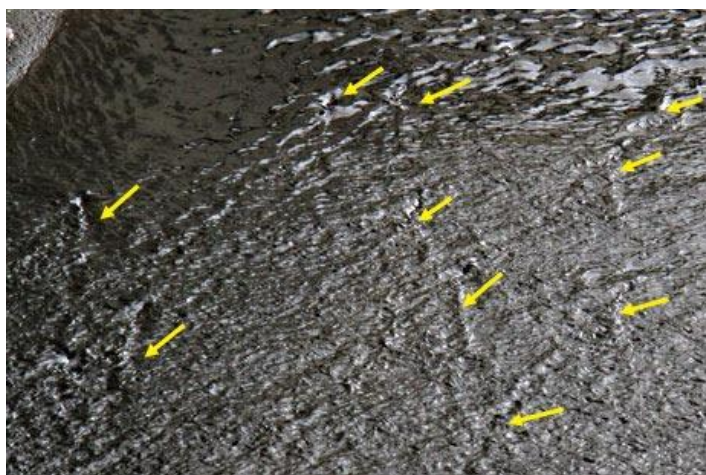
「急流」をあきらめて戻ろうとしたボラが、急に「Uターン」して、再び上流に向かう姿が見られたのです。

これにはビックリしました。

そして、上流に向かう先を見ると・・・



「急流」のなかを、バシャバシャと水を跳ね上げ、遡上する姿があったのです。どうもこの「急流」は水深が浅すぎて、ボラの体高を水が覆いきれず、背びれや尾びれが水を跳ね上げているようです。



さらにその先を見ると、実に沢山のボラが「急流」の中を遡上しているのです。こういう姿を見ると、ボラたちの勇気やがんばりに、胸が高まります。

ただ、どうも光りの向きが悪く、「水面反射」でひどくて、波立ちだけが写り、ボラがよく見えないのが残念です。だいたい夢中でシャッターを切っているので、プロの写真家のように、光りの向きなど考えている余裕が無いのです。



それでもなんとか、水中のボラの姿が写らないかと、あちこち移動し、「水面反射」の光が少ない場所を見つけ、やっと撮った1枚です。「急流」の中を、一生懸命ボラが泳ぎ、尾びれをバタバタさせて水を跳ね上げています。ボラの撮影を通じて、水中にいる生きものの撮影の難しさをイヤと言うほど感じさせられました。



こうして、急流域を乗り越え、やっと静かな流れに到達したボラです。数はとても少ないものでした。



まもなく、「呑川」の最上流、「工大橋」に近づこうとしています。



いつの間にか、ボラたちは少し増えていました。これが、河口から最上流まで、幾多の困難を乗り越えてやって来たボラたちの勇姿です。思わず、大きな拍手を送りたくなりました。



ボラたちに困難をもたらした「急流」は、「石川町」の「島畑橋」の上流側と下流側の2ヶ所にあります。ここが、ボラたちにとって大きな障害になるとは、夢にも思っていませんでした。

「仲之橋」付近の「段差」や、野鳥たちの「狩猟圧」、そして「島畑橋」付近の「急流」・・・・・・それらは思わぬ遡上障害の要因となりましたが、ボラたちの少なからずは、それを乗り越えました。でも、「仲之橋」に居た数千、数万のボラの大群からすれば、それは何百分の一、何千分の一という数に過ぎません。

それでも「ボラ」たちは、他の生きものに比べ幸せかもしれません。「狩猟圧」のなかで、「人間の狩猟圧」は飛び抜けて大きいものです。クジラでも、ゾウでも、ライオンでも、「人間の狩猟圧」で絶滅の危機にさらされ多くの生きものは人間に生殺与奪を握られて居ます。それに比べれば、ボラは人間による「狩猟圧」はほとんど受けておらず、コサギやカワウなどの「狩猟圧」などはたかがしれているように見えます。

さて、次回は「水質とボラ」の関係に迫りたいと思います。(続く・・)

(当面の日程)

- 2014/8/1 (金) 洗足池図書館「呑川講座」大田区報掲載・募集開始
2014/8/9 (土) 「呑川の会・定例会」 13:30 蒲田小学校
2014/8/20 (水) 「呑川ネット・定例会」 10:00 生活センター・講座室
2014/9/13 (土) 洗足池図書館「呑川講座」第1回スタート(連続5回講座)
2014/9/18(木) 「呑川の会・定例会」 10:00 洗足池図書館・多目的室

-----photo essay by-----

高橋 光夫

〒145-0061 東京都大田区石川町 1-26-8

(tel) 03-3727-8419 (fax) 03-3727-8505

(mail) mitsuo.takahashi@nifty.com
